

青少年の育成活動 (静岡育英会、静岡県ボーイスカウト)

河井弥八は、昭和の初期の頃から青少年の育成に関心を持ち、静岡育英会の理事に加わった。育英事業の基金として多額の資金も拠出している。育英事業を通して、経済的に恵まれない子女に対して学費の援助を行い勉学を応援する運動に関わってきた。こうした青少年育成への関心は、静岡県ボーイスカウトの育成にも深く関わりを持つことになった。

日本ボーイスカウトは、「身体強健な精神の健やかなる青年を、それぞれの国家と全世界のために育成する」目的を持つ。この団体は、戦後静岡県各地でも誕生した。野外での活動を通して青少年の健全育成を図るボーイスカウト活動は、盛んになりつつあった。

昭和28年(1953年)日本ボーイスカウト静岡県連盟長となり、昭和30年(1955年)5月には、秩父宮妃殿下をお迎えして日本ボーイスカウト静岡県大会(第6回大会)が、静岡市青葉小学校で開催された。式典後、団員による市中パレードが行われたが、河井弥八自身もパレードに参加して、市民にボーイスカウトの存在とその活躍を広く宣伝した。

県連盟長に推戴された昭和27年(1952年)4月には、第3回全国植樹祭が天皇・皇后を迎えて、静岡県函南村十国峠で開催された。警察官の物々しい警備は好ましくないというので、静岡県ボーイスカウト連盟がその役を担うことになった。ボーイスカウトの役員、団員は、奉仕活動として参加者の整理や警備等に積極的に協力した。参議院議員でもあった河井弥八は、天皇・皇后の植樹の介添えを行った。

河井弥八のこうした一連の活動を通して、時代を担う青少年への期待感がうかがわれる。

資料：日本ボーイスカウト静岡県連盟50年史